

# WTI原油先物ファンド

(ロング・ポジション／ショート・ポジション／マネー・ポジション)

【WTI原油先物ファンド(ロング・ポジション)】 追加型投信／海外／その他資産(商品先物)／特殊型(ブル・ベア型)

【WTI原油先物ファンド(ショート・ポジション)】 追加型投信／海外／その他資産(商品先物)／特殊型(ブル・ベア型)

【WTI原油先物ファンド(マネー・ポジション)】 追加型投信／国内／債券

## 交付運用報告書

第7期(2016年6月27日決算)

作成対象期間(2015年6月26日～2016年6月27日)

### WTI原油先物ファンド(ロング・ポジション)

第7期末(2016年6月27日)	
基準価額	3,116円
純資産額	15,326百万円
騰落率	△42.0%
分配金合計	0円

### WTI原油先物ファンド(ショート・ポジション)

第7期末(2016年6月27日)	
基準価額	12,099円
純資産額	783百万円
騰落率	37.3%
分配金合計	0円

### WTI原油先物ファンド(マネー・ポジション)

第7期末(2016年6月27日)	
基準価額	10,004円
純資産額	1,000百万円
騰落率	△0.0%
分配金合計	0円

(注)騰落率は、税引前の分配金が分配時に再投資されたものとみなして計算しています。

### 受益者の皆様へ

平素は「WTI原油先物ファンド(ロング・ポジション)」、「WTI原油先物ファンド(ショート・ポジション)」、「WTI原油先物ファンド(マネー・ポジション)」(以下、これらを総称して、またはそれぞれを指して「当ファンド」という場合があります。)にご投資いただき、厚くお礼申し上げます。

さて、当ファンドは、第7期決算を行ないました。「WTI原油先物ファンド(ロング・ポジション)」は、主として米国の原油先物取引を積極的に活用し、日々の基準価額の値動きがWTI原油先物取引価格の値動きと概ね連動する投資成果を目指して運用を行なっております。「WTI原油先物ファンド(ショート・ポジション)」は、主として米国の原油先物取引を積極的に活用し、日々の基準価額の値動きがWTI原油先物取引価格の値動きの概ね反対となる投資成果を目指して運用を行なっております。「WTI原油先物ファンド(マネー・ポジション)」は、わが国の短期公社債に投資を行なうことにより、安定した収益の確保を目指して運用を行なっております。当期につきましても運用の基本方針に沿った運用を行ないました。期中の運用状況につきまして、ご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

## アストマックス投信投資顧問株式会社

東京都品川区東五反田二丁目10番2号

サポートダイヤル

0120-580446

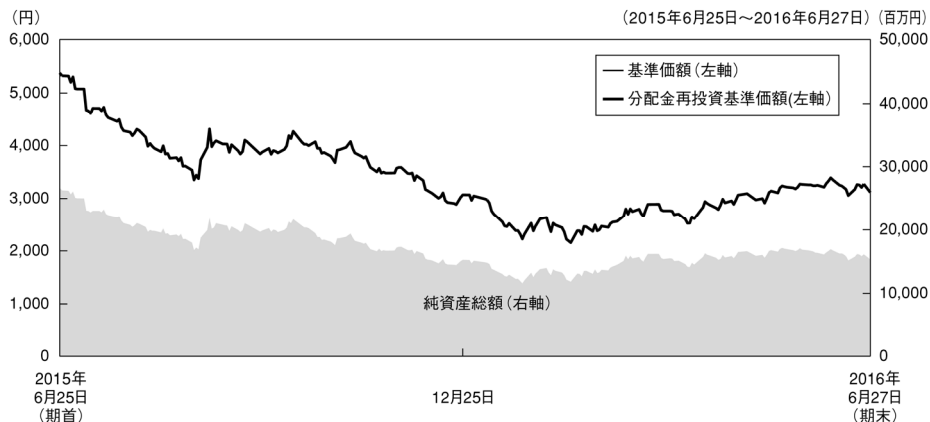
(受付時間) 営業日の午前9時～午後5時

<http://www.astmaxam.com>

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を電磁的方法(投資信託及び投資法人に関する法律第14条第2項に規定する電磁的方法をいいます。)により提供する旨を定めております。上記「サポートダイヤル」に記載の弊社ホームページの「ファンド情報」のページより当ファンドの運用報告書(全体版)を閲覧、ダウンロードすることができます。また、運用報告書(全体版)は、ご請求いただいた場合には交付いたしますので、販売会社までお問い合わせください。

## 《運用経過》

## 【基準価額等の推移について】



第7期首：5,377円

第7期末：3,116円（既払分配金 0円）

騰落率：△42.0%（分配金再投資ベース）

### ■基準価額の主な変動要因

米国の原油先物取引を積極的に活用し、日々の基準価額の値動きがWTI原油先物取引価格の値動きと概ね連動する投資成果を目指して運用を行ないましたが、当ファンドの日々の基準価額の値動きは、WTI原油先物取引価格の値動きと概ね連動しました。期を通してみると、基準価額はWTI原油先物取引価格が下落したことなどをを受けて値下がりました。

\* 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金が分配時に再投資されたものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。なお、分配を見送らせていただいた場合は、分配金再投資基準価額と基準価額は同じとなります。

\* 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

## 1 万口当たりの費用の明細

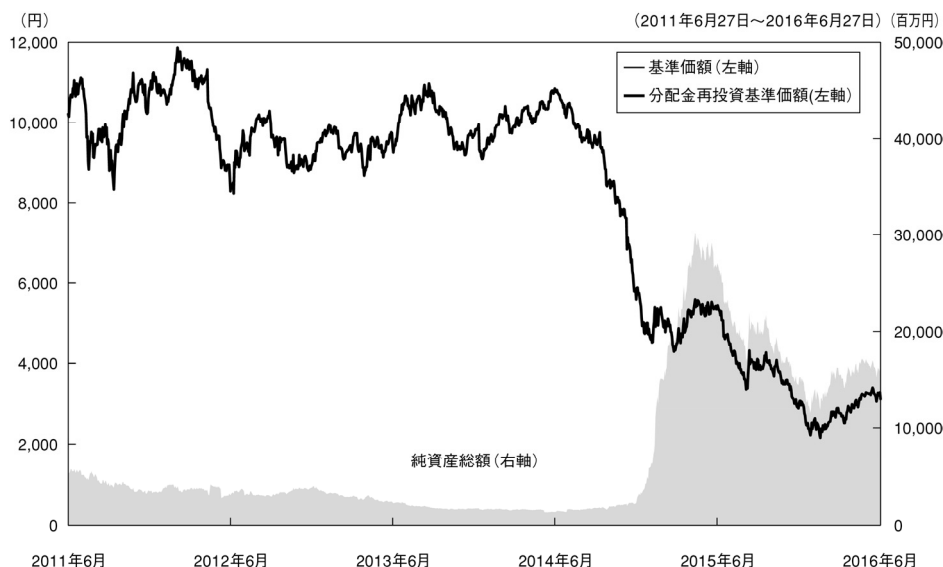
項 目	第 7 期		項 目 の 概 要
	(2015. 6. 26～2016. 6. 27)		
	金 額	比 率	
信託報酬	72円	2.052%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率。期中の平均基準価額（月末値の平均値）は3,489円です。
（投信会社）	(41)	(1.184)	委託した資金の運用の対価
（販売会社）	(28)	(0.814)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	(2)	(0.054)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売買委託手数料	6	0.181	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数。売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（先物・オプション）	(6)	(0.181)	
その他費用	1	0.038	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
（保管費用）	(0)	(0.000)	海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
（監査費用）	(1)	(0.018)	監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（法定開示に係る費用）	(1)	(0.020)	印刷会社等に支払う目論見書、運用報告書等の作成、印刷、交付等に係る費用
合 計	79	2.271	

\* 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

\* 「金額」欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

\* 「比率」欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

## 【最近5年間の基準価額等の推移について】



\* 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金が分配時に再投資されたものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。なお、分配実績がない場合は、分配金再投資基準価額と基準価額は同じとなります。

\* 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

	2011年6月27日	2012年6月25日	2013年6月25日	2014年6月25日	2015年6月25日	2016年6月27日
基準価額 (円)	10,224	8,454	9,404	10,774	5,377	3,116
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△17.3	11.2	14.6	△50.1	△42.0
WTI原油先物取引価格(参考指数)騰落率 (%)	—	△15.3	14.0	14.3	△46.2	△41.6
純資産総額 (百万円)	5,237	3,188	2,279	1,370	26,675	15,326

\* WTI原油先物取引価格(参考指数)は当ファンドの参考指数です。参考指数は投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数として記載しております。

## ● 参考指数に関して

- WTI原油先物取引価格(参考指数)は、WTI原油先物取引価格(期近物)の日々の騰落率を、設定日を10,000として指数化したものを使用しています。日々の騰落率については、基準価額への反映を考慮し、原則として基準価額計算日前日付のWTI原油先物取引価格(期近物)の値に基づき算出しています。なお、期近物の最終取引日の騰落率は、翌限月のものを使用しています。

## 【投資環境について】

当期のWTI原油先物市場は、期初から軟調に推移しましたが、2016年2月以降は反発する展開となりました。

WTI原油先物取引価格(期近物)は、前期末は60ドル程度(1バレルあたり。以下、同じ)でしたが、中国株式市場の下落やギリシャの債務問題などを受けて2015年8月下旬には40ドル割れの水準まで下落しました。その後、イエメンやシリアなどを巡る地政学的リスクの高まりなどを受けて一時反発の動きが見られましたが、米国の利上げ観測の高まりを背景とする米ドルの上昇が米ドル建てで取引されるWTI原油先物取引価格の割高感につながったこと、米国の原油在庫が歴史的な水準で推移したことなどが売り材料視され下落基調に転じ、2016年2月中旬には26ドル台まで下落しました。その後は、サウジアラビアやロシアなどの主要産油国による生産調整への期待感や、ナイジェリアやカナダなどの生産障害を受けた原油需給の逼迫観測などから反発する展開となり、6月には51ドル台まで値を戻しました。

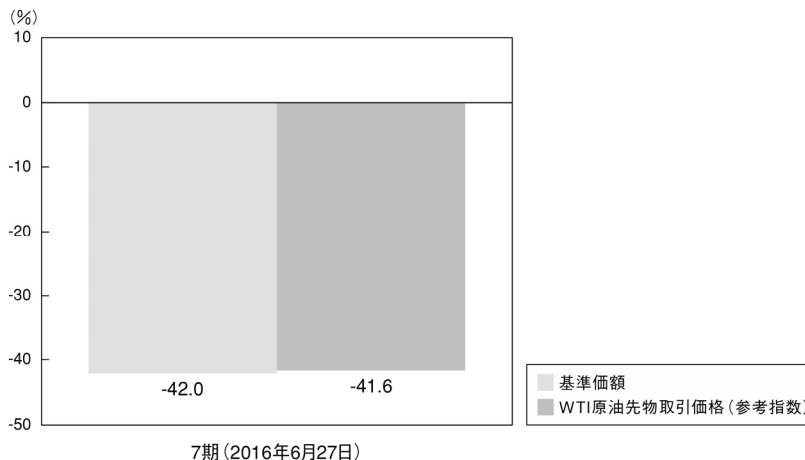
## 【ポートフォリオについて】

当ファンドは、主として米国の原油先物取引を積極的に活用し、日々の基準価額の値動きがWTI原油先物取引価格の値動きと概ね連動する投資成果を目指して運用を行なうことを基本としています。運用にあたっては、原油先物取引の買建玉の時価総額の合計額が信託財産の純資産総額と同程度となるよう調整を行なうとともに、国内余剰資金については、わが国の短期公社債に投資を行ないます。また、外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行なうこととしています。

当期は、期を通じて、原油先物取引の買建玉の時価総額の合計額が信託財産の純資産総額と同程度となるよう日々調整を行ないました。国内余剰資金については、主として短期の国債(国庫短期証券)に投資を行ないました。また、外貨建資産については、ほぼ全額為替ヘッジを行ないました。

## 【ベンチマークとの差異について】

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数の騰落率の対比です。



## 【分配金について】

収益分配金(1万口当たり、課税前、以下同じ)については、基準価額の水準や分配原資の積み上がり状況等を勘案し、分配を見送らせていただきました。なお、収益分配に充てなかった利益につきましては、信託財産内に留保し元本部分と同一の運用を行ないます。

## ■分配原資の内訳(1万口当たり)

項 目	第7期
	2015年6月26日 ～2016年6月27日
当期分配金(税込み)	－円
(対基準価額比率)	－%
当期の収益	－円
当期の収益以外	－円
翌期繰越分配対象額	1,223円

\* 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損補填後の売買益(評価益を含む)」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

\* 「当期の収益」および「当期の収益以外」は、小数点以下を切捨てて表示しているため、合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

\* 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

## 《今後の運用方針》

原油先物取引の買建玉の時価総額の合計額が信託財産の純資産総額と同程度となるよう調整することにより、日々の基準価額の値動きがWTI原油先物取引価格の値動きと概ね連動する投資成果を目指して運用を行なってまいります。

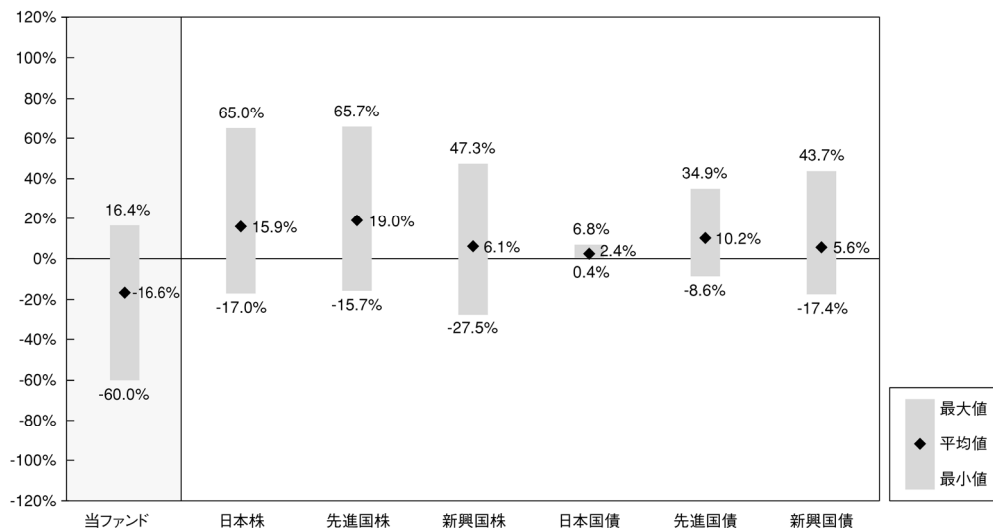
今後とも引き続きご愛顧賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

## 《当ファンドの概要》

商品分類	追加型投信／海外／その他資産（商品先物）／特殊型（ブル・ベア型）
信託期間	平成29年6月26日までとします。ただし、元本金額が30億円を下回った場合などはファンドを終了（繰上償還）させる場合があります。
運用方針	この投資信託は、主として米国の原油先物取引を積極的に活用し、日々の基準価額の値動きがWTI原油先物取引価格の値動きと概ね連動する投資成果を目指して運用を行ないます。
主要投資対象	米国の原油先物取引およびわが国の短期公社債を中心に投資します。
運用方法	①日々の基準価額の値動きがWTI原油先物取引価格の値動きと概ね連動する投資成果を目指して運用を行ないます。 ②運用にあたっては、原油先物取引の買建玉の時価総額の合計額が信託財産の純資産総額と同程度となるよう調整を行なうとともに、国内余剰資金については、わが国の短期公社債に投資します。 ③外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行ないます。
分配方針	①毎決算期に収益の分配を行なう方針です。ただし、基準価額の水準や市場動向等を勘案して収益の分配を行わない場合もあります。 ②分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とします。 ③信託財産に留保した収益の運用については、特に制限を設けず、「基本方針」および「運用方法」に基づき元本と同一の運用を行ないます。

## 〈 参 考 情 報 〉

## ◆代表的な資産クラスとの騰落率の比較



・上記は、2011年6月から2016年5月の5年間ににおける1年騰落率の最大・最小・平均を代表的な資産クラスについて表示したものです。

・各資産クラスの指数

日本株：東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株：MSCI コクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債：NOMURA-BPI国債

先進国債：シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債：JPモルガンGBP-EMグローバル・ダイバーシファイド（円ベース）

※全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

※当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

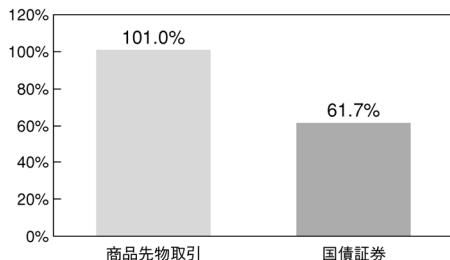
※騰落率は直近前月末から60ヶ月遡った算出結果であり、当ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しております。

## 《ファンドデータ(2016年6月27日現在)》

## 【当ファンドの組入資産の内容】

## ■資産別配分



\*比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

## 【純資産等】

項目	第7期末
	2016年6月27日
純資産総額	15,326,056,988円
受益権総口数	49,187,752,563口
1万口当たり基準価額	3,116円

\*当期中における追加設定元本額は31,884,983,612円、同解約元本額は32,311,063,370円です。

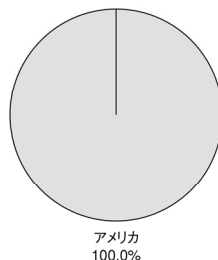
## 【商品先物取引の内容】

## ■組入(上位)銘柄

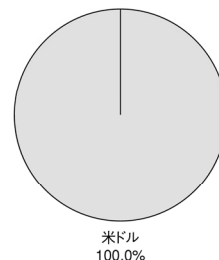
(組入銘柄数: 1銘柄)

銘柄名	比率 (%)
WTI原油先物(2016年8月限)	101.0

## ■国別配分



## ■通貨別配分



\*組入(上位)銘柄の比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。国別配分、通貨別配分の比率は、商品先物取引全体に対する評価額の割合です。  
\*全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

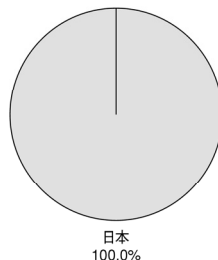
## 【国債証券の内容】

## ■組入(上位)銘柄

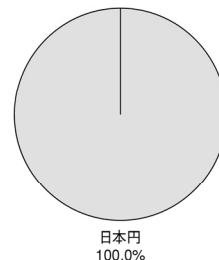
(組入銘柄数: 7銘柄)

	銘柄名	比率 (%)
1	第598回国庫短期証券	45.0
2	第593回国庫短期証券	4.6
3	第610回国庫短期証券	3.3
4	第604回国庫短期証券	3.3
5	第601回国庫短期証券	2.6
6	第609回国庫短期証券	1.6
7	第602回国庫短期証券	1.3

## ■国別配分



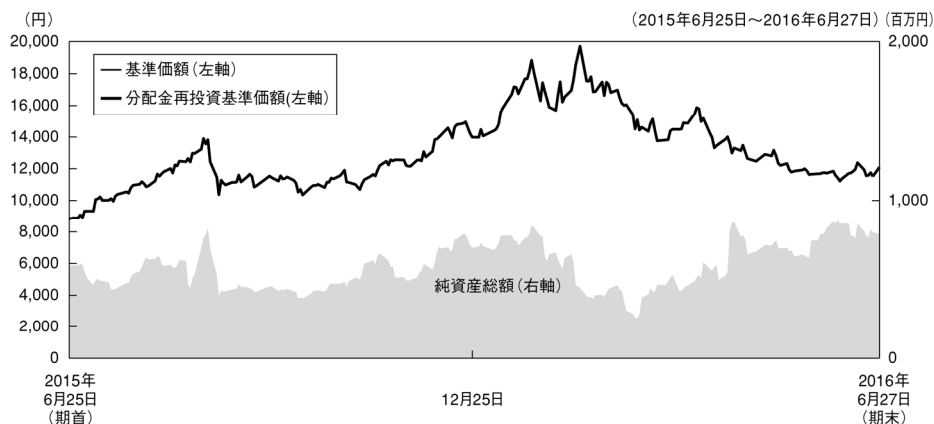
## ■通貨別配分



\*組入(上位)銘柄の比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。国別配分、通貨別配分の比率は、国債証券全体に対する評価額の割合です。  
\*全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

## 《運用経過》

## 【基準価額等の推移について】



第7期首：8,809円

第7期末：12,099円 (既払分配金 0円)

騰落率：37.3% (分配金再投資ベース)

### ■基準価額の主な変動要因

米国の原油先物取引を積極的に活用し、日々の基準価額の値動きがWTI原油先物取引価格の値動きの概ね反対となる投資成果を目指して運用を行ないましたが、当ファンドの日々の基準価額の値動きは、WTI原油先物取引価格の値動きの概ね反対で推移しました。期を通してみると、基準価額はWTI原油先物取引価格が下落したことなどをを受けて値上がりしました。

\* 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金が分配時に再投資されたものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。なお、分配を見送らせていただいた場合は、分配金再投資基準価額と基準価額は同じとなります。

\* 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

## 1 万口当たりの費用の明細

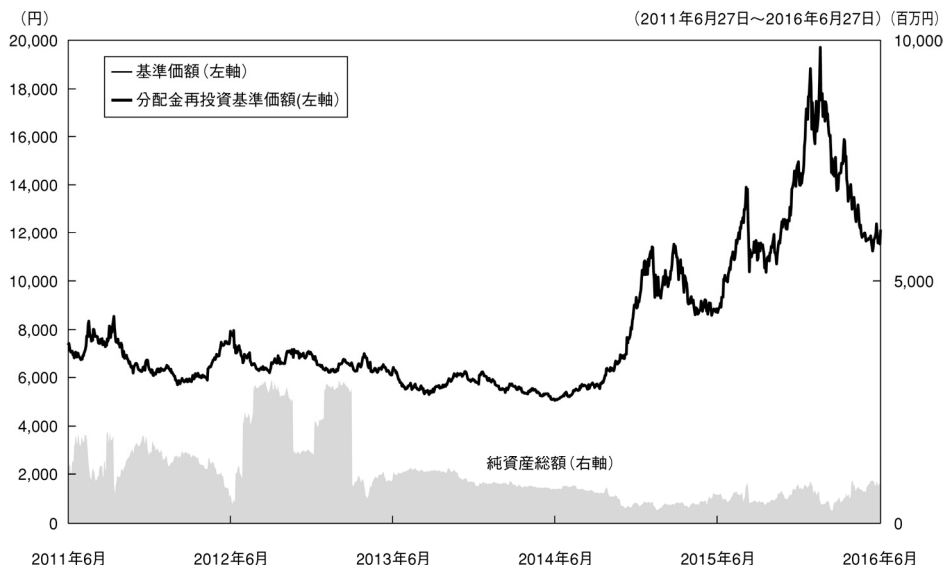
項 目	第 7 期		項 目 の 概 要
	(2015. 6. 26～2016. 6. 27)		
	金 額	比 率	
信託報酬	261円	2.052%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率。期中の平均基準価額（月末値の平均値）は12,724円です。
（投信会社）	(151)	(1.184)	委託した資金の運用の対価
（販売会社）	(104)	(0.814)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	(7)	(0.054)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売買委託手数料	41	0.323	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数。売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（先物・オプション）	(41)	(0.323)	
その他費用	6	0.044	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
（保管費用）	(0)	(0.002)	海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
（監査費用）	(2)	(0.016)	監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（法定開示に係る費用）	(3)	(0.026)	印刷会社等に支払う目論見書、運用報告書等の作成、印刷、交付等に係る費用
合 計	308	2.419	

\* 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

\* 「金額」欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

\* 「比率」欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

## 【最近5年間の基準価額等の推移について】



\* 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金が分配時に再投資されたものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。なお、分配実績がない場合は、分配金再投資基準価額と基準価額は同じとなります。

\* 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

	2011年6月27日	2012年6月25日	2013年6月25日	2014年6月25日	2015年6月25日	2016年6月27日
基準価額 (円)	7,381	7,770	6,311	5,095	8,809	12,099
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	5.3	△18.8	△19.3	72.9	37.3
WTI原油先物取引価格(参考指数)騰落率 (%)	—	△15.3	14.0	14.3	△46.2	△41.6
純資産総額 (百万円)	1,172	514	1,020	699	581	783

\* WTI原油先物取引価格(参考指数)は当ファンドの参考指数です。参考指数は投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数として記載しております。

## ●参考指数に関して

- WTI原油先物取引価格(参考指数)は、WTI原油先物取引価格(期近物)の日々の騰落率を、設定日を10,000として指数化したものを使用しています。日々の騰落率については、基準価額への反映を考慮し、原則として基準価額計算日前日付のWTI原油先物取引価格(期近物)の値に基づき算出しています。なお、期近物の最終取引日の騰落率は、翌限月のものを使用しています。

## 【投資環境について】

当期のWTI原油先物市場は、期初から軟調に推移しましたが、2016年2月以降は反発する展開となりました。

WTI原油先物取引価格(期近物)は、前期末は60ドル程度(1バレルあたり。以下、同じ)でしたが、中国株式市場の下落やギリシャの債務問題などを受けて2015年8月下旬には40ドル割れの水準まで下落しました。その後、イエメンやシリアなどを巡る地政学的リスクの高まりなどを受けて一時反発の動きが見られましたが、米国の利上げ観測の高まりを背景とする米ドルの上昇が米ドル建てで取引されるWTI原油先物取引価格の割高感につながったこと、米国の原油在庫が歴史的な水準で推移したことなどが売り材料視され下落基調に転じ、2016年2月中旬には26ドル台まで下落しました。その後は、サウジアラビアやロシアなどの主要産油国による生産調整への期待感や、ナイジェリアやカナダなどの生産障害を受けた原油需給の逼迫観測などから反発する展開となり、6月には51ドル台まで値を戻しました。

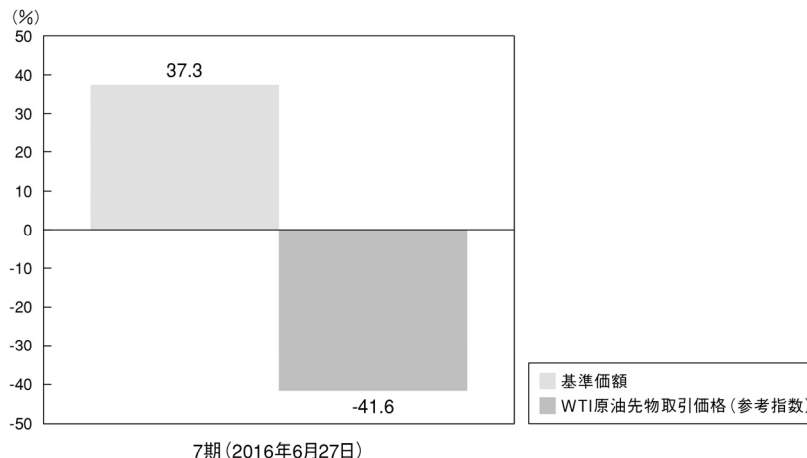
## 【ポートフォリオについて】

当ファンドは、主として米国の原油先物取引を積極的に活用し、日々の基準価額の値動きがWTI原油先物取引価格の値動きの概ね反対となる投資成果を目指して運用を行なうことを基本としています。運用にあたっては、原油先物取引の売建玉の時価総額の合計額が信託財産の純資産総額と同程度となるよう調整を行なうとともに、国内余剰資金については、わが国の短期公社債に投資を行ないます。また、外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行なうこととしています。

当期は、期を通じて、原油先物取引の売建玉の時価総額の合計額が信託財産の純資産総額と同程度となるよう日々調整を行ないました。国内余剰資金については、主として短期の国債(国庫短期証券)に投資を行ないました。また、外貨建資産については、ほぼ全額為替ヘッジを行ないました。

## 【ベンチマークとの差異について】

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数の騰落率の対比です。



## 【分配金について】

収益分配金(1万口当たり、課税前、以下同じ)については、基準価額の水準や分配原資の積み上がり状況等を勘案し、分配を見送らせていただきました。なお、収益分配に充てなかった利益につきましては、信託財産内に留保し元本部分と同一の運用を行ないます。

### ■分配原資の内訳(1万口当たり)

項目	第7期
	2015年6月26日 ～2016年6月27日
当期分配金(税込み)	－円
(対基準価額比率)	－%
当期の収益	－円
当期の収益以外	－円
翌期繰越分配対象額	2,098円

- \* 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損補填後の売買益(評価益を含む)」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。
- \* 「当期の収益」および「当期の収益以外」は、小数点以下を切捨てて表示しているため、合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。
- \* 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

## 《今後の運用方針》

原油先物取引の売建玉の時価総額の合計額が信託財産の純資産総額と同程度となるよう調整することにより、日々の基準価額の値動きがWTI原油先物取引価格の値動きの概ね反対となる投資成果を目指して運用を行なってまいります。

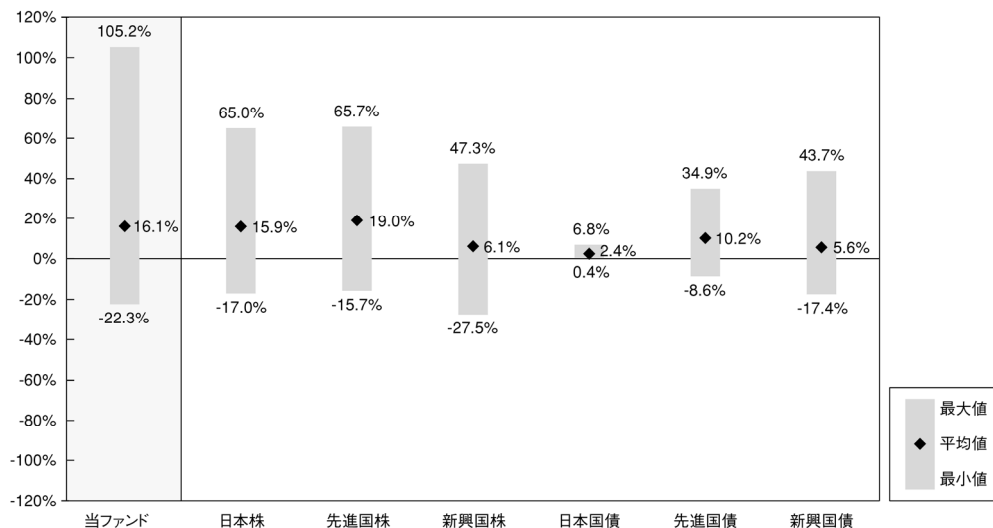
今後とも引き続きご愛顧賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

## 《当ファンドの概要》

商品分類	追加型投信／海外／その他資産（商品先物）／特殊型（ブル・ベア型）
信託期間	平成29年6月26日までとします。ただし、元本金額が30億円を下回った場合などはファンドを終了（繰上償還）させる場合があります。
運用方針	この投資信託は、主として米国の原油先物取引を積極的に活用し、日々の基準価額の値動きがWTI原油先物取引価格の値動きの概ね反対となる投資成果を目指して運用を行ないます。
主要投資対象	米国の原油先物取引およびわが国の短期公社債を中心に投資します。
運用方法	①日々の基準価額の値動きがWTI原油先物取引価格の値動きの概ね反対となる投資成果を目指して運用を行ないます。 ②運用にあたっては、原油先物取引の売建玉の時価総額の合計額が信託財産の純資産総額と同程度となるよう調整を行なうとともに、国内余剰資金については、わが国の短期公社債に投資します。 ③外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行ないません。
分配方針	①毎決算期に収益の分配を行なう方針です。ただし、基準価額の水準や市場動向等を勘案して収益の分配を行わない場合もあります。 ②分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とします。 ③信託財産に留保した収益の運用については、特に制限を設けず、「基本方針」および「運用方法」に基づき元本と同一の運用を行ないます。

## 〈 参 考 情 報 〉

## ◆代表的な資産クラスとの騰落率の比較



・上記は、2011年6月から2016年5月の5年間における1年騰落率の最大・最小・平均を代表的な資産クラスについて表示したものです。

・各資産クラスの指数

日本株：東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株：MSCI コクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債：NOMURA-BPI国債

先進国債：シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債：JPモルガンGBP-EMグローバル・ダイバーシファイド（円ベース）

※全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

※当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

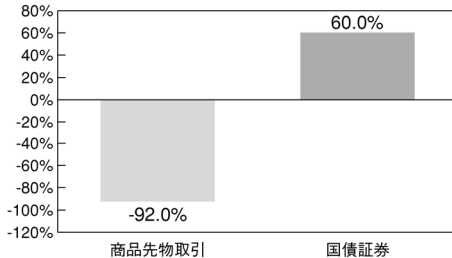
※騰落率は直近前月末から60ヶ月遡った算出結果であり、当ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しております。

## 《ファンドデータ(2016年6月27日現在)》

## 【当ファンドの組入資産の内容】

## ■資産別配分



\*比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

## 【純資産等】

項目	第7期末
	2016年6月27日
純資産総額	783,495,098円
受益権総口数	647,579,150口
1万口当たり基準価額	12,099円

\*当期中における追加設定元本額は3,405,170,472円、同解約元本額は3,417,689,434円です。

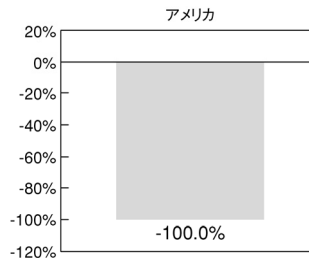
## 【商品先物取引の内容】

## ■組入(上位)銘柄

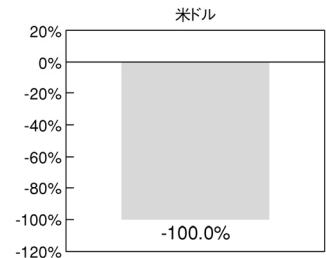
(組入銘柄数: 1銘柄)

銘柄名	比率 (%)
WTI原油先物(2016年8月限)	△92.0

## ■国別配分



## ■通貨別配分



\*組入(上位)銘柄の比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。国別配分、通貨別配分の比率は、商品先物取引全体に対する評価額の割合です。  
\*全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

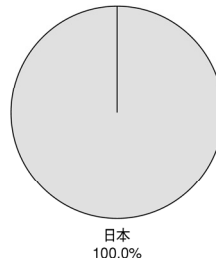
## 【国債証券の内容】

## ■組入(上位)銘柄

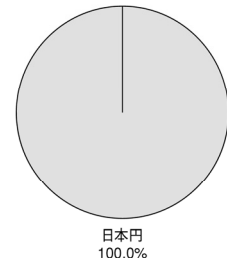
(組入銘柄数: 5銘柄)

	銘柄名	比率 (%)
1	第611回国庫短期証券	24.3
2	第610回国庫短期証券	23.0
3	第598回国庫短期証券	6.4
4	第600回国庫短期証券	3.8
5	第602回国庫短期証券	2.6

## ■国別配分



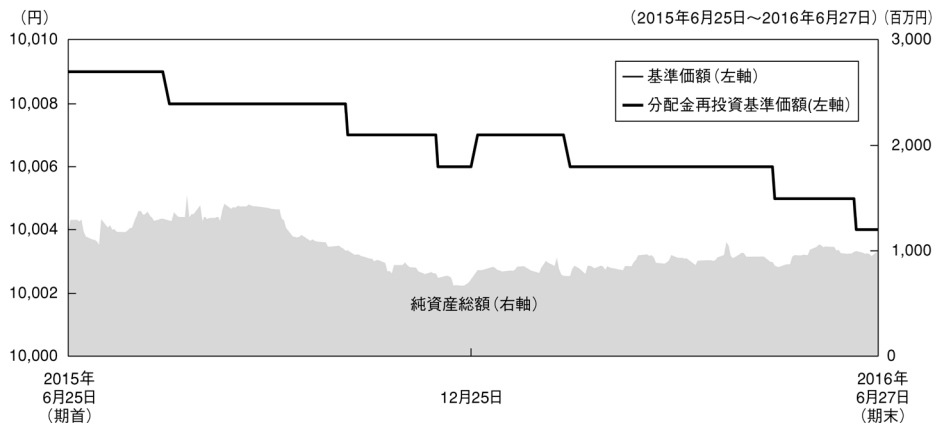
## ■通貨別配分



\*組入(上位)銘柄の比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。国別配分、通貨別配分の比率は、国債証券全体に対する評価額の割合です。  
\*全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

## 《運用経過》

## 【基準価額等の推移について】



第7期首：10,009円

第7期末：10,004円（既払分配金 0円）

騰落率：△0.0%（分配金再投資ベース）

## ■基準価額の主な変動要因

わが国の短期公社債に投資を行なうことにより、安定した収益の確保を目指して運用を行ないましたが、国庫短期証券(3ヶ月)の利回りが概ねマイナスで推移するなど利息収入等の運用収益を確保することが困難な状況が続き、基準価額は下落しました。

\* 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金が分配時に再投資されたものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。なお、分配を見送らせていただいた場合は、分配金再投資基準価額と基準価額は同じとなります。

\* 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

## 1 万口当たりの費用の明細

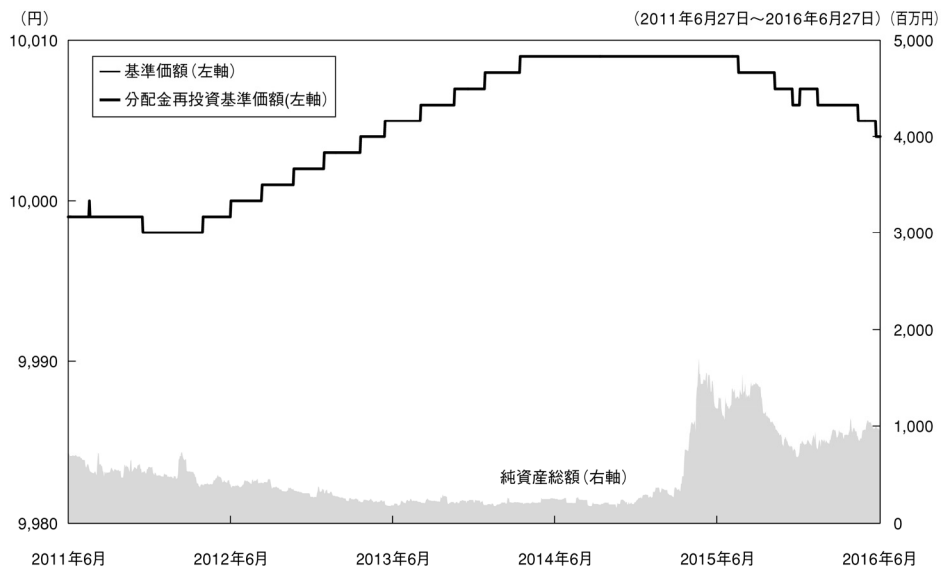
項 目	第 7 期		項 目 の 概 要
	(2015. 6. 26～2016. 6. 27)		
	金 額	比 率	
信託報酬	－円	－％	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率。期中の平均基準価額（月末値の平均値）は10,007円です。
（投信会社）	（－）	（－）	委託した資金の運用の対価
（販売会社）	（－）	（－）	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	（－）	（－）	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
合 計	－	－	

\* 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、上記の数式で信託報酬を計算した場合（期中の平均基準価額×信託報酬率）、当該計算で用いる直近の信託報酬率が零のため、信託報酬は表示されませんが、実際に信託財産から支弁された信託報酬に基づき計算した場合（期中の信託報酬／期中の平均受益権口数）、信託報酬の金額は3円（比率は0.026％）となり、内訳は、投信会社1円（同0.012％）、販売会社1円（同0.012％）、受託会社0円（同0.003％）となります。

\* 「金額」欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

\* 「比率」欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

## 【最近5年間の基準価額等の推移について】



\* 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金が分配時に再投資されたものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。なお、分配実績がない場合は、分配金再投資基準価額と基準価額は同じとなります。

\* 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

	2011年6月27日	2012年6月25日	2013年6月25日	2014年6月25日	2015年6月25日	2016年6月27日
基準価額 (円)	9,999	10,000	10,005	10,009	10,009	10,004
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	0.0	0.1	0.0	0.0	△0.0
純資産総額 (百万円)	725	371	182	248	1,179	1,000

\* 当ファンドは、投資資金を一時待機させておくことを目的としたファンドであり、該当するベンチマーク等はありません。

## 【投資環境について】

無担保コール翌日物金利については、期初から概ね0.07%～0.08%で推移しましたが、日本銀行が「マイナス金利付き量的・質的金融緩和」を導入したことを受けて2016年2月中旬以降は概ねマイナスでの推移となりました。国庫短期証券(3ヶ月)の利回りについては、期初から概ねマイナスで推移しましたが日本銀行による「マイナス金利付き量的・質的金融緩和」の導入を受けて一段と低下しました。

## 【ポートフォリオについて】

当ファンドは、わが国の短期公社債に投資を行なうことにより、安定した収益の確保を目指して運用を行なうことを基本としています。

当期は、主として短期の国債(国庫短期証券)に投資を行ないました。

## 【ベンチマークとの差異について】

当ファンドは、投資資金を一時待機させておくことを目的としたファンドであり、該当するベンチマーク等はありません。

## 【分配金について】

収益分配金(1万口当たり、課税前、以下同じ)については、基準価額の水準や分配原資の積み上がり状況等を勘案し、分配を見送らせていただきました。なお、収益分配に充てなかった利益につきましては、信託財産内に留保し元本部分と同一の運用を行ないます。

### ■分配原資の内訳(1万口当たり)

項 目	第7期
	2015年6月26日 ～2016年6月27日
当期分配金(税込み)	－円
(対基準価額比率)	－%
当期の収益	－円
当期の収益以外	－円
翌期繰越分配対象額	12円

\* 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損補填後の売買益(評価益を含む)」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

\* 「当期の収益」および「当期の収益以外」は、小数点以下を切捨てて表示しているため、合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

\* 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

## 《今後の運用方針》

わが国の短期公社債に投資を行なうことにより、安定した収益の確保を目指して運用を行なっていく方針です。

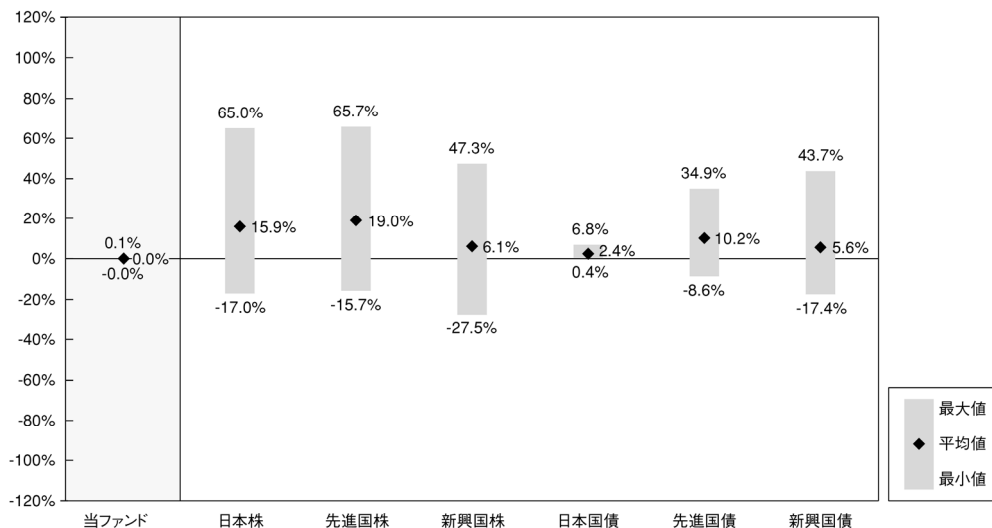
今後とも引き続きご愛顧賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

## 《当ファンドの概要》

商品分類	追加型投信／国内／債券
信託期間	平成29年6月26日までとします。ただし、元本金額が30億円を下回った場合などはファンドを終了（繰上償還）させる場合があります。
運用方針	わが国の短期公社債に投資を行なうことにより、安定した収益の確保を目指して運用を行ないます。
主要投資対象	わが国の短期公社債を中心に投資します。
運用方法	わが国の短期公社債を中心に投資し、利息収入の確保を図ることを目的として運用を行ないます。
分配方針	①毎決算期に収益の分配を行なう方針です。ただし、基準価額の水準や市場動向等を勘案して収益の分配を行わない場合もあります。 ②分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とします。 ③信託財産に留保した収益の運用については、特に制限を設けず、「基本方針」および「運用方法」に基づき元本と同一の運用を行ないます。

## 〈 参 考 情 報 〉

## ◆代表的な資産クラスとの騰落率の比較



・上記は、2011年6月から2016年5月の5年間における1年騰落率の最大・最小・平均を代表的な資産クラスについて表示したものです。

・各資産クラスの指数

日本株：東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株：MSCI コクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債：NOMURA-BPI国債

先進国債：シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債：JPモルガンGBP-EMグローバル・ダイバーシファイド（円ベース）

※全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

※当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

※騰落率は直近前月末から60ヶ月遡った算出結果であり、当ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しております。

## 《ファンドデータ(2016年6月27日現在)》

## 【当ファンドの組入資産の内容】

## ■組入(上位)銘柄

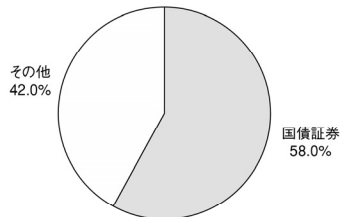
(組入銘柄数: 3銘柄)

	銘柄名	比率(%)
1	第598回国庫短期証券	47.0
2	第602回国庫短期証券	7.0
3	第609回国庫短期証券	4.0

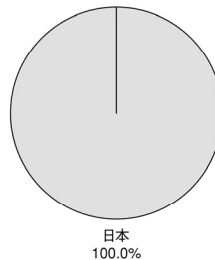
\*比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

\*全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

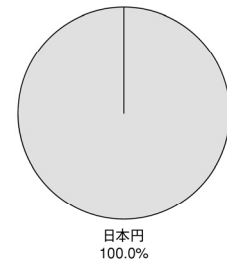
## ■資産別配分



## ■国別配分



## ■通貨別配分



\*比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

## 【純資産等】

項目	第7期末
	2016年6月27日
純資産総額	1,000,143,672円
受益権総口数	999,722,328口
1万口当たり基準価額	10,004円

\*当期中における追加設定元本額は4,941,503,523円、同解約元本額は5,119,813,983円です。